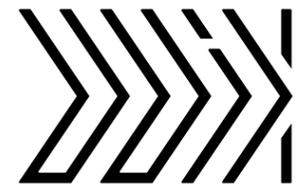


大学発アーバンイノベーション神戸 研究成果報告書



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

研究課題名：神戸市長田の継承語・継承文化の保存と教育への活用を目指した総合的研究

研究期間：2023年11月～2025年3月

交付決定額(研究期間全体)：2,791千円

申請区分：一般助成型
課題番号：A23105

研究代表者：神戸大学 国際人間科学部
助教 佐々木一恵



1. 研究成果の概要

主な研究の成果は下記の3点となる。

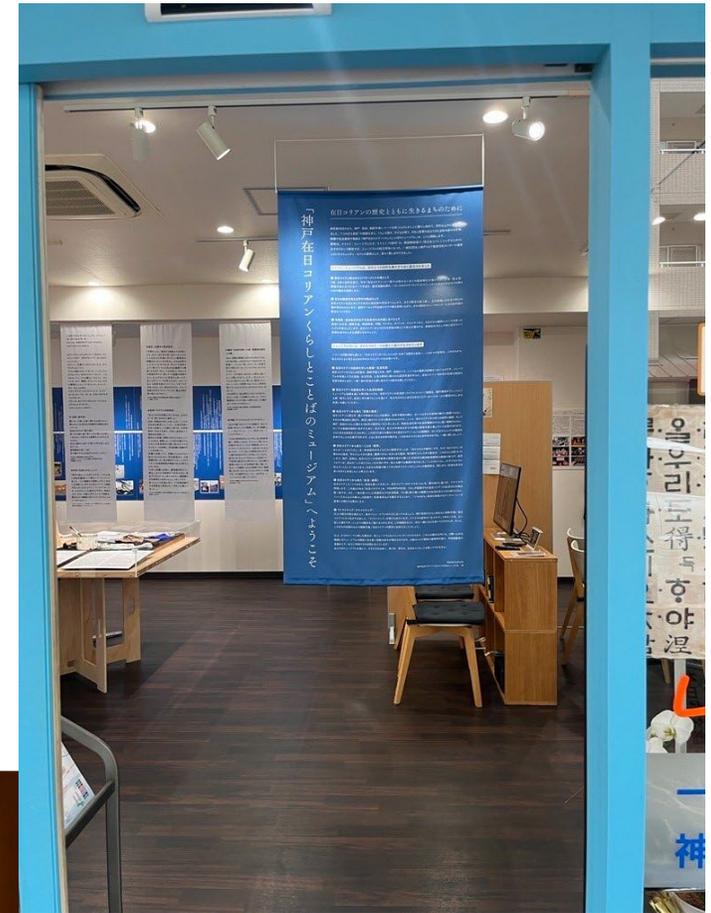
1 【拠点形成】 神戸市の外国につながる市民のもたらず継承語・継承文化とそれにまつわる実践を社会資源・教育資源として可視化・活用することを目的に「神戸在日コリアン くらしとことばのミュージアム（以下「ミュージアム」）」を拠点として形成した。

2 【多文化教育の実践】 神戸市内外の学校教員・大学教員と共にミュージアムを拠点に多文化教育を実践し、小学生向け・中高生向け・大学生向けの・市民向けの多文化教育を実践した。

3 【後続のエスニックグループや他館との連携】 新長田のベトナムコミュニティとの連携を行った。またボリビアや韓国、ベルギーあるいは日本国内の移民ミュージアムとの意見交換を進めた。また大阪のコリアタウン歴史資料館、ウトロ平和祈念館、東京の韓人資料館、高麗博物館、川崎の「多文化共生をめざす川崎歴史ミュージアム（開館準備中）」と共に2025年11月8日に在日コリアンミュージアムフォーラムを開催すべく準備中である

2. 研究成果の学術的意義や社会的意義

- 2024年12月14日に神戸市新長田において「ミュージアム」を開設し、移民の歴史資料、写真、生活用具、ビデオ等を多文化教育教材として一般に広く公開し、多文化教育を実践した。これを通じ、人の国際移動の歴史を社会全体の文化資源・教育資源として可視化し、「人の移動」が社会にもたらす資源性を明らかにした。





3. 研究開始当初の背景

- 少子高齢化が進む中、外国につながる市民は今後もその存在感は増すだろう。しかし現在、兵庫県におけるニューカマー生徒の高校進学率の低さが指摘されている。2世3世の学歴形成の不利はすでに日本を第2の故郷と定めた移民にとって今ここにある重大な問題であるのと同時に、今後、外国人高度人材が日本への移動を躊躇する大きな要因にもなりうる緊急に解決すべき課題でもある。
- 神戸において既に5世が誕生している先発の移民集団である在日コリアンがその継承語・継承文化を教育先資源として当事者の言語教育・アイデンティティ教育に組み、高進率などの教育指標を向上させてきた。さらには、地域の公立学校や市民社会に人権教育・国際理解教育・語学教育の場を提供してきた。こうしたノウハウをミュージアムを拠点とし、学校教育および生涯教育機関や後続のニューカマー市民と共有すること、地域社会に還元し、外国につながる市民を受け入れ、地域の多様性を確保することが地域社会の魅力・強みとなるシステムの構築が急がれる。

本研究の目的は外国につながる市民が継承語・継承文化を実際に社会資源・教育資源として可視化し、移民を受け入れることを、いかにホスト社会にとっての利益とすることができるのか、その道筋を実証的に明らかにすることである。この研究目的達成によって、外国につながる市民への社会的評価の転換を目指す。



5. 研究の方法

- 2023年初めよりー2024年12月まで23名の大学教員、アーティスト、小中学校教員からなるミュージアム設置準備委員会がミュージアム開館に向けて、展示資料や、年表・地図作成を行った。
- また準備委員会メンバーが大阪コリアンタウン・京都ウトロ平和祈念館への見学、韓国仁川の移民史博物館、ボリビアのボリビア・オキナワ歴史資料館、ベルギーのMigratie Museum Migrationを訪れ、学芸員との意見交換の場を持った。
- 2024年12月のミュージアム開設以降は高校、大学、市民向けの講座、フィールドワーク、ミュージアムガイドなどを企画。2025年4月からは毎月1回の講演会と参加型のアクティビティを開催し、その記録をビデオ教材やブックレットにまとめる。また小学校や中高生向けの教材開発も進めている。



6-1. 研究成果 準備委員会に参加している現職教員作成のワークシート事例



神戸在日コリアン

くらしとことばのミュージアム



在日コリアンのくらしとことばの記録

「まちの歴史を知ることは、未来を考えること。」

多文化共生のまち、神戸・長田。このまちには、ともに生きてきた在日コリアンのくらしとことばの歴史があります。歴史を感じ、これからの未来もともに考えていきましょう。

1 くらしの記録

ここにはくらしの記録写真があります。どんな場面での写真だと思いますか。どんな話もしているかな。

ここに書きましょう

2 くらしの証言

在日コリアンの人たちのくらしはどのようなものだったのでしょうか。当時の社会の様子もどのようなものだったのでしょうか。その中で、在日コリアンの人たちがどのようなくらしをしていたのでしょうか。



3 100年の歴史

社会の動き、神戸の歴史とともに、在日コリアンの人たちのくらしが変化してきたことが目撃されています。今も社会は動き続けています。変化してきた歴史とともに、これからの未来も考えてみましょう。



4 くらしとことばを守る

在日コリアンの大人たちは、くらしを守るために、子どもたちに「くらしとことば」を伝えてきました。伝えることは簡単なことではありましたが、仲間とともに、現在に至るまで伝えてきました。



6 まちとともに

「てくてくマップ(テドゥリマップ)」を見てみましょう。神戸・長田のまちとともに在日コリアンの人たちのくらしとことばがここにあることがわかります。ともに歩んできた歴史もマップから感じることが出来ます。ぜひ、マップを見ながら、長田のまちも歩いてみてください。

5 このまちに生きる

神戸・長田といえば「くつのもち」で有名です。その「くつのもち」は在日コリアンの人たちとともに変えてきました。ケミカルシューズは進化ビニール素材とし、安価で平に履きやすく、デザイン性も高かったため、人気となりました。どのような作業もして、くつづくりをしているのが見えます。

ここに書きましょう



くらしとことばを伝える

7 オリニソダン

オリニソダン(子どもの寺子屋)は、在日コリアンの「くらしとことば」を大切にしたい保護者たちが仲間となって、1995年に始まりました。2004年からは蓮池小学校(旧小)で教室が買われ、ルーツをもつ子ども達が通っています。

8 オリニマダン

オリニマダン(子どもの広場)は、在日コリアンの子どもたちをはじめ、様々な国のルーツがある子どもたちの交流の場として毎年春に開かれています。真蘭小学校のベトナムにルーツをもつ子どもたちのホフマイ教室も参加しています。

9 みんなの「ナドゥリミュージアム」

この「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」は、「ナドゥリミュージアム」ともよばれる月日が経ちました。それでも、「自分のふるまどが知りたい」「親戚とつながりたい」と在日コリアンの人があります。そして、在日コリアンの人だけでなく、長田のまちには在日朝鮮、中国など、さまざまな場所からルーツをもった人たちがくらししています。大人、子どもたち、たくさんの方に集い、交える人もたくさんいます。このまち、この場所から、これからの未来をもとに考

10 わたしの思い、みんなの思い

〇もっと知りたくなったよ

〇まだまだ歴史がもっとも

〇よりよい未来のために自分ができるとこと

〇いいなと感じたみんなの思い

ミュージアムを見てクイズに答えよう!

- Q1 ケミカルシューズ作りの工具には職人さんがそれぞれ使いやすいようにいろんな工夫をしていたよ。どんな工夫をしていたのか見つけてみよう!
- Q2 日本に暮らしていた朝鮮半島出身者は男の人と女の人とどっちが多かった? 1920年と1940年で比べてみよう!
- Q3 年表の前のタペストリーにあるくことば>ひらがなが多く使われているのは誰のことば?それはなぜ?
- Q4 写真に写っているのは男の人と女の人とどっちが多い?数えてみよう!
- Q5 1948年、どうしてコリアンの子供たちはコリアのことばを学ぶことを禁止さ





- 開館以来の半年で一般観覧者920名に加え、下記の団体・学校からの団体参観があった。

- ① 12/21 (土) たかとりコミュニティセンター職員フィールドワーク (以下FWと記述) 12名
- ② 1/10(金) 神戸学院大学現代社会学部教員・学生 16名
- ③ 1/17 (土) 摂南大学現代社会学部教員・学生FW11名
- ④ 1/26(土) 武庫川女子大学教員・学生 約10名
- ⑤ 2/3(月) 同志社大学人文科学研究所教員等 約5名
- ⑥ 2/9(日) 関西大学社会学部教員・学生 約20名
- ⑦ 2/11(火) 兵庫県在日外国人高校生交流会教員・生徒 約30名
- ⑧ 2/15(土) 同志社大学グローバル地域文化学部教員 約5名
- ⑨ 2/22(土) 「長田の歌脈を歩くツアー」FW 約30名
- ⑩ 2/26(水) 真宗大谷派職員研修FW 約15名
- ⑪ 3/8(土) 兵庫県浜坂町部落解放同盟研修 約10名
- ⑫ 3/16(日) 金沢星稜大学教員・学生 約10名
- ⑬ 3/24(月) まやゲストハウススタッフ研修 約10名
- ⑭ 3/25(火)~27(木) 大阪府下企業人権研修FW 約90名
- ⑮ 3/28(金) (公社)尼崎市人権啓発協会研修 FW約25名



- ①⑥ 4/1 韓国大邱市医療福祉協同組合5名にガイド
- ①⑦ 4/13 摂南大学松本ゼミ教員+学生計10名にガイド
- ①⑧ 4/25 長田在日大学（長志珠絵）+長田南小FW20名
- ①⑨ 5/2 京都ウトロ平和祈念館事務局スタッフ2名にガイド
- ②⑩ 5/8(木)丹波味間ふれあい館 約30名 ガイド+トーク
- ②⑪ 5/25(日)長田在日大学（本岡拓哉）+「大橋朝鮮人部落跡」FW
- ②⑫ 6/1(日)武庫川女子大学 約10名 ガイド+トーク+FW
- ②⑬ 6/3(火)兵庫教育大学 約15名 ガイド+トーク+FW
- ②⑭ 6/6(金)大阪府下退職教員グループ 約15名 内容未定
- ②⑮ 6/6(金)神戸大学移住移民研究センター約10名シンポジウムFW
- ②⑯ 6/21(土)関学+神戸学院大 約30名 ガイド+トーク+FW
- ②⑰ 6/29 (日)長田在日大学（キムシニョン）

6-3研究成果 4月21に訪れた摂南大学が作成したインターネット放送



大学発アーバンイノベーション神戸

4月13日にナドゥリミュージアムを訪れた摂南大学現代社会学部学生が、タウンチャンネルで、ミュージアムで学んだことを広く市民に発信。「来館者が自分の物語を語りたくなるミュージアム」「想像していた博物館ではなく人の語りや思いが生きている空間」と紹介
<https://www.youtube.com/live/KM4WDdlpGM>
(20分から～45分)



【摂南大学現代社会学部】タウンチャンネル摂南...多文化共生を考える 大阪（生野、摂津）、神戸（長田）からの報告

神戸くらしとことばのミュージアム (ナドゥリミュージアム) の概要

2024年12月 神戸市長田区に開館
在日コリアンの生活史、文化、そして個々人の語りを
展示・保存する地域密着型の施設

館長
金信鏞 (キム・シニョン) 氏

人々の語りと記憶をつなげる場所

【摂南大学現代社会学部】タウンチャンネル摂南...多文化共生を考える 大阪（生野、摂津）、神戸（長田）からの報告

3-1- 資金と他施設との違い

資金
クラウドファンディング、寄付や助成金など。

他施設との違い
他館との違いは「語り」と「出会い」を重視し、在日コリアン自身が見つけ出す場である点。また、多文化共生を地域の中で具体的に実践することを目指しており、韓国・ベトナム・ミャンマーなど多様なルーツの人々にとっても開かれた場を志向している。

7-今後の展望

小中学生向け資料作成
他ミュージアムとのネットワーク化、展示の多言語化、
修学旅行・地域部活動との連携強化が進行中

将来的にはデジタルアーカイブ化も視野に、持続可能な地域ミュージアムとしての発展を目指す。

【摂南大学現代社会学部】タウンチャンネル摂南...多文化共生を考える 大阪（生野、摂津）、神戸（長田）からの報告

6-4. 研究成果 新長田のベトナムコミュニティベトナム夢KOBEが作成したインターネット放送



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

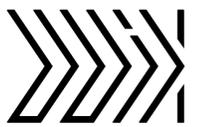


神戸市内のベトナム系市民の自助組織ベトナム夢KOBEのインターネット放送で、神戸在日くらしとことばのミュージアムとアメリカのカルフォルニアのベトナム系や日系移民ミュージアムが紹介され、神戸にベトナム系ミュージアムが必要か、作るとしたらどんなミュージアムか？と話し合われる。

<https://www.youtube.com/watch?v=BvA5ZkIM-8I>



6-5. 研究成果 今後の発展



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

2025年度より長田在日大学を月に1回以上開催し、その成果をブックレットにまとめ、2026年度に1冊の本として明石出版より出版予定

- 4月26日（土）長志珠絵（神戸大学）講演「地域現代史としての阪神教育闘争-戦後の神戸史を読み替える【講演前に阪神教育闘争の跡を辿るフィールドワーク】
- 5月25日（日）本岡拓哉（同志社大学）講演「新湊川沿い『大橋の朝鮮人部落』再考」【講演前に大橋朝鮮人部落跡をフィールドワーク】
- 6月29日（日）金信鏞（一般社団法人神戸コリア教育文化センター）講演「まちのミュージアムが見通す世界」
- 7月27日（日）江口怜（摂南大学）講演「ひまわり識字教室と湊川夜間高校の朝鮮語クラス2つのことばをめぐる活動から」【同時開催ひまわり作品展】
- 8月15日（金）竹田響（京都大学大学院）/高城健人（神戸女子大学）講演「1945年終戦前後の朝鮮半島と日本間の人の移動」
- 8月31日（日）釜口清江/恒松美紀（神戸市小学校教員）「小学校でミュージアムから在日コリアンを学ぶ」【講演後に小学校6年生用教材ワークショップ】
- 9月28日（日）稲津秀樹（鳥取大学）講演「長田の民話を語り直す～民話の＜民＞とはだれか？」【講演後に民話語り直しワークショップ】

長田在日大学 2025/阪神教育闘争から77年

地域現代史としての「阪神教育闘争」一戦後の神戸史を読み替える試み

「4・24」阪神教育闘争は1948年、占領下での日本政府—文部省による「朝鮮人学校閉鎖令」に直接的な端緒を持つ。戦後の民主化が進捗する時代は同時進行的に、子どもに教育を受けさせたいという、解放後の在日社会の当たり前の生活要求に対し、日米合作による過酷な弾圧体制を強いた。加えて、身近な神戸の戦後史、現代史は「4・24」を組み込んでこなかったのではないだろうか。インターネットレベルではすぐさま「事件」呼称がヒットするなど、いまなお現在の歴史認識として深刻な課題を持つ。これまでの成果に学びつつ、「4・24」を組み込んだ神戸の戦後史、地域史からどのような歴史像を語るることができるか、考えたい。

● 2025年4月26日(土) 14:00~16:30(受付 13:30~)

● お話し…長志珠絵(おさしづえ)さん

神戸大学大学院国際文化学専攻教授

● 会場…ナドゥリミュージアム 2階セミナー室 (JR新長田駅南東すぐ)

● 参加費…1,000円(ミュージアム入館料含む)



■ セミナーの前に神戸市立長田南小学校にある朝鮮人学校校名碑を見学します。
参加希望者は12時45分までにナドゥリミュージアムへお越しください。

※ セミナー、懇親会への参加は前日までにQRコードからお申し込みください。
定員になり次第、締め切らせていただきます。 <https://forms.gle/4SziSrdz7qEVbDt16>

【主催】一般社団法人神戸コリア教育文化センター

(併設ナドゥリミュージアム)

〒653-0038 神戸市長田区若松町3-1-1-103

TEL078-777-2232 korea.uriecc@gmail.com

【共催】朝鮮人学校校名碑に集う会



● 2024年に「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム(愛称ナドゥリミュージアム)」が開館しました。
持続的運営に向け、引き続きみなさまからのご寄付を募っています。ぜひご支援をお寄せください。
(ゆうちょ銀行へ振り込まれる場合は、お名前等をメールまたは電話にてお知らせください)

★ゆうちょ銀行

・ゆうちょからの振り込み

【記号】14340【番号】53329171【口座名】一般社団法人神戸コリア教育文化センター

・他行からの振り込み

【店名】四三八(読み ヨンサンハチ)【店番】438【口座番号】5332917

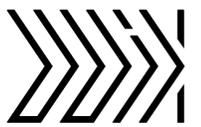
【口座名】一般社団法人神戸コリア教育文化センター

★郵便局【口座記号番号】00930-3-234560

【加入者名】一般社団法人 神戸コリア教育文化センター



6-5 (続き) . 研究成果 今後の発展



大学発アーバンイノベーション神戸
University's Urban Innovation Kobe

- 10月26日 (日) 横堀ふみ (ラントイ) 子守歌ワークショップ「新長田の子守歌を集めて」【ワークショップ前に和楽寺-ラントイ周辺フィールドワーク】
- 11月30日 (日) だるまもり+えりこ (アーティスト) 【ジオラマ・ワークショップ「ナドウリ・ミュージアムのジオラマを囲んで」】
- 12月28日 (日) 酒井千絵 (関西大学) 「世界の移民ミュージアムの潮流、特にベルギーブリュッセル移民博物館のフィールドワークガイドプログラムの事例から」
- 1月17日 (土) 安成洋 (映画『港に灯がともる』プロデューサー) 講演「在日コリアンの視点で震災の経験を読み直す」【講演前に映画上映】
- 1月31 (日) 山中速人 (関西学院名誉教授) 講演「歴史とライフストーリー～個人の語りから浮かび上がる歴史」【講演後にライフストーリー・ワークショップ】
- 2月22日 (日) 落合知子 (摂南大学) (講演) 「世界の継承語をめぐる言語政策の中での神戸オリニソダンを考える～特に南米日系社会の継承日本語との対比で」
- 3月29日 (日) 受講者の事後学修応用展開ワークショップ

連続講座は映像資料化してミュージアムのウェブサイトに掲載予定。また講演はブックレット化してミュージアムにて販売予定

長田在日大学 2025



戦後、「大橋の朝鮮人部落」を読み解く

戦後のいつからか、1960年代後半までにおいて、神戸長田を流れる新湊川/苅藻川沿いにバラック(仮小屋)が建ち並び、人々が暮らす地域が形成されていた。とりわけ湊川大橋周辺は、朝鮮人が多く暮らしていたことから「大橋の朝鮮人部落」とも呼ばれた。厳しい生活環境とともに公有地の「不法占拠」ゆえ、常に立ち退きの危機

にあったこの地域の形成から消滅までの過程を辿り、ここに暮らす人々がいかに生活していたのか、残された資料や証言を基に読み解く(と/ほど)きたい。

- 2025年5月25日(日) 14:00~16:30(受付 13:30~)
- お話し…本岡 拓哉さん (同志社大学人文科学研究所准教授)
著書に『『不法』なる空間に生きる：占拠と立ち退きをめぐる戦後都市史』(大月書店, 2019年)
- 会場…ナドウリミュージアム 2階セミナー室 (JR新長田駅南東 200m)
- 参加費…1,000円 (ミュージアム入館料含む)
- セミナーの前に「大橋の朝鮮人部落」跡フィールドワークを実施します。参加希望者は13時までにナドウリミュージアムへお越しください。(参加費別途 500円)
- ※セミナー、フィールドワーク、懇親会への参加は前日までに下記 URL または QRコードからお申し込みください。 <https://x.gd/bl4MT>

【主催】一般社団法人神戸コリア教育文化センター(併設ナドウリミュージアム)
〒653-0038 神戸市長田区若松町 3-1-1-103 TEL078-777-2232 korea.uriecc@gmail.com

- 2024年に「神戸在日コリアンくらしとこぼのミュージアム(愛称ナドウリミュージアム)」が開館しました。持続的運営に向け、引き続きみなさまからのご寄付を募っています。ぜひご支援をお寄せください。(ゆうちょ銀行へ振り込まれる場合は、お名前等をメールまたは電話にてお知らせください)

★ゆうちょ銀行
・ゆうちょからの振り込み
【記号】14340【番号】53329171【口座名】一般社団法人神戸コリア教育文化センター
・他行からの振り込み
【店名】四三八(読み ヨサンハチ)【店番】438【口座番号】5332917
【口座名】一般社団法人神戸コリア教育文化センター
★郵便局【口座記号番号】00930-3-234560【加入者名】一般社団法人 神戸コリア教育文化センター



6-5. 研究成果 他館との連携と国際学会での発表



①2025年11月8日日本国内のコリアンミュージアムの連携

「日韓条約60周年記念 在日コリアンミュージアムフォーラム～歴史の継承と豊かな共生の未来へ～」大阪公立大学にて神戸、京都、大阪、東京、川崎在日コリアンミュージアム共催シンポジウム

②2025年7月11日モロッコのラバトで開かれる国際社会学会にて「在日コリアンミュージアムが涵養する多文化間リテラシー神戸・大阪・京都の在日コリアンのミュージアムの事例から」を発表予定



- Home
- Sign In
- Search
- Meeting Calendar
- Program Calendar
- RC/TG/WG
- Participants
- Registrant Index
- Meeting Resources
- Technical Support

Multicultural Literacy Fostered By Zainichi Korean Museums: Case Studies of Kobe, Kyoto, and Osaka in Japan

📅 Friday, 11 July 2025
🕒 13:00 - 13:20
📍 FSE032 (Faculty of Education Sciences (FSE))

Abstract

In Japan, where the Ainu and Uchinanchu indigenous peoples have lived for centuries and people of Korean and Chinese origin have lived for more than 100 years, immigrants and ethnic minorities have been invisible to those who have the illusion of a mono-ethnic nation, and have been the objects of display in museums and expositions. In recent years, however, there have been attempts to democratically transform Japanese civil society, the host society, by having minorities themselves document their history and create community archives, forming a base for providing multicultural and human rights education.

This study aims to elucidate how multicultural education and human rights education provided by immigrant museums can bring about multicultural literacy to citizens of the host society, including immigrant parties, through the operation of participatory teaching methods of multicultural education and human rights education based at immigrant museums by Korean parties living in Japan. The purpose of this study is to elucidate how multicultural education and human rights education conducted at immigrant museums can bring about multicultural literacy (Banks, 1991) among citizens of the host society, including immigrants. The analysis will focus on the practices of three museums in the Kansai region, which were established mainly by Korean residents in Japan. These are the Kobe Museum of Korean Lives and Words, which open in 2024; the Korean Town Historical Museum in Osaka, which was established in 2023; and the Utoro Peace Memorial Museum, which opened in Kyoto in 2022. Examples of multicultural and human rights education practices conducted there will be introduced. Through life story interviews with people engaged in multicultural education and human rights education at the museums and interviews with the general public who participated in the education, we will clarify the reality of the learning that is taking place there.

Primary Author

Tomoko Ochiai

- Banks, J.A. (1991) 'Multicultural Literacy and Curriculum Reform', Educational Horizons Volume 69, Number 3, Spring 1991. pp. 135-140.
- ISA, International Sociological Association. (2025) <https://isaconf.confex.com/isaconf/forum2025/meetingapp.cgi/Home/0> (2025, 5, 20 on site)
- 森茂岳雄・中山京子 (2008) 『日系移民学習の理論と実践』 明石書店
- タウンチャンネル 摂南 (2025) 多文化共生を考える 大阪 (生野、摂津)、神戸 (長田) からの報告 <https://www.youtube.com/live/KM4WDdlpgrMA> (2025, 5, 20 on site)
- ベトナム夢KOBE (2025) 「住みやすい日本を作るための情報発信番組：アメリカ紀行 (1)：日本にベトナム博物館は必要か？」 <https://www.youtube.com/watch?v=BvA5ZkIM-8I> (2025, 5, 20 on site)
- Whitlock, G. (2017) 'Salvage: Locating Lives in the Migration Museum', Life Writing, 14(4), pp. 427-440.
- 矢ヶ崎典隆編 (2018) 『移民社会アメリカの記憶と継承—移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ—』 学文社.